

本だ～いすき



戸祭小学校
図書室だより
H24. 4. 18



まどからはい かげ こころ はるほんばん
窓から入る風も心地よく、春本番となってきました。
今日は、新年度をむかえた図書室から、チャレンジブックについてのお知らせがあります。

～チャレンジブック50選が新しくなりました～

がくねん ごとのおすすめのほん “チャレンジブック50選” に、この4月から新しい本が入ります。

国語の教科書が新しくなったこと、児童のみなさんからの要望があったこと、などから昨年さくねんの秋より見直し作業をすすめていました。

学年に応じて読みやすく、楽しい本をたくさん入れました。新しいチャレンジブックが図書室で借りられるのは5月からとなりますが、2さつ借りる本のうちの1さつは、チャレンジブックから選んでみましょう。



この時期、図書室では新しい本をそろえる準備に入っています。今年度も、みなさんからの希望を募りたいと思います。

「こんな本を読んでみたい」「あのシリーズの続きをそろえてほしい」など、読みたい本の名前を下の用紙に記入して、図書室の赤いポストに入れてください。

自分の名前を書くのも忘れずにね！

本のなまえ _____
かいた人 _____

____年 ____組 名前_____

～かじだしが、はじめました！～

1) 本が借りられる時間は？

月～金曜日・・・業間の休み時間・昼休み

金曜日・・・朝の貸し出し（7:40～8:10）を行っています。

2) 本は2さつ借りられます。

ただし、長いお休み（夏休み、冬休み）の前や、ゴールデンウィーク中、11月の読書月間などは3さつ借りることができます。

3) 借りられる期間は一週間です。

長い物語や授業で使う本など、期間内に読み終わらなかった本は、一度返却してからもう一度借りてください。

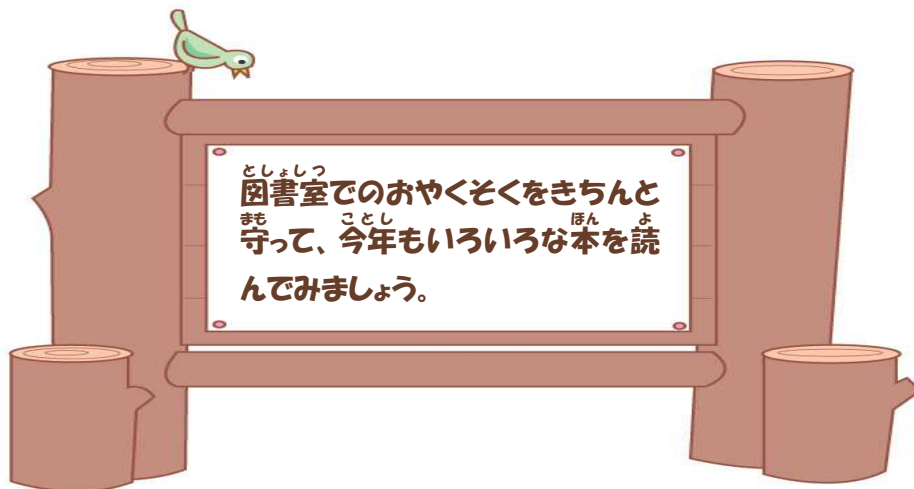
4) 本を入れる手さげ袋を用意しましょう！

落としたり、濡にぬれたりするのを防ぐためにも、本は手さげ袋に入れて持ち運んでください。

図書室の本は、戸祭小学校のみんなのもので、大切に扱ってください。

5) 授業におくれないようにしましょう。

チャイムのなる1分前には、貸し出しの手続きをすませ、ゆとりをもって教室にもどきましょう。



ほん よ こんな本も読んでみよう！



そら しんわ 《空へつづく神話》

とみやす ようこ さく
富安 陽子／作

(5年チャレンジブックより)



◇◇◇ 児童のみなさんへ ◇◇◇

“困った時の神だのみ”という言葉のように、タイミングよく神様の救いの手が伸びてこないかな、と考えたことはありませんか。そんな私たちの望みをかなえてくれる神様が、この本の主人公のひとりです。

まっ白いひげをたくわえた太めの老人と小学生の女の子“理子”のくりひろげる物語。歴史の好きなひと、不思議なお話の好きなひと、そして今度こそは、長い物語を最後まで読んでみたい、と思っている人にぜひ手に取ってほしい1さつです。

◇◇◇ 保護者の方へ ◇◇◇

読みやすい短めの物語や絵本の時期を経て、少し厚めの本に挑戦してみようという子どもたちの意気込みを感じるのがこの時期です。

年齢に応じた内容の児童文学を読むことは自信となり、次の一歩を踏み出すきっかけになります。きちんとした読書習慣を身につけさせ、豊かな心を育てていくことはとても大切です。

学年ごとに設定されているチャレンジブック50選には、国語の教科書に掲載されている図書や、全国学校図書館協議会で選定された過去の「課題図書」等が入っています。4月のこの時期、ご家庭でもお子さんと一緒に「本」について、お話をする機会を設けてみてはいかがでしょうか。

としょかんいん
《バスラの図書館員》

～イラクで本^{ほん}当^{とう}にあつた^{はなし}話～

ジャネット・ウィンター／作 長田 弘／訳

(6年^{ねん}チャレンジブックより)



◇◇◇ 児童^{じどう}のみなさんへ ◇◇◇

この本^{ほん}に描^{えが}かれた内容^{ないよう}は、すべて实际^{じっさい}に起^{おこ}った事^{こと}です。イラクの首都^{しゅと}バスラの図書館員^{としょかんいん}アリアさんが、命^{いのち}をかけても守^{まも}りたかつたもの、それは膨大^{ぼうだい}な量^{りょう}の“図書館^{としょかん}の本^{ほん}”でした。

ひたむきに生きる彼女^{かのじょ}の姿^{すがた}から、平和^{へいわ}の尊^{とうと}さ、命^{いのち}の重^{おも}さ、そして、民族^{みんぞく}の誇^{ほこ}りを感じ^{かん}じますね。

◇◇◇ 保護者^{ほごしや}の方^{かた}へ ◇◇◇

2003年^{ねん}7月^{がつ}27日^{にち}付けのニューヨークタイムズに載^のった“バスラの図書館^{としょかん}”の記事^{きじ}がきっかけとなり、この絵本^{えほん}が生まれましました。

インターネットが普及^{ふきゅう}し、あらゆる情^{じょう}報^{ほう}が簡便^{かんべん}に得^えられる時代^{じだい}にあって、“本^{ほん}”というもの^{もの}の持^もつ意義^{いぎ}について改^{あらた}めて認^{にん}識^{しき}する1冊^{さつ}です。

長い読^よみ物^{もの}ではありませんが、内容^{ないよう}の重^{おも}み、深^{ふか}さは、活字^{かつじ}のみの書籍^{しよせき}に決^{けつ}してひけを取^とらない作品^{さくひん}です。



4/23～5/12にかけて、「こども読^{どく}書^{しよ}週^{しゅう}間^{かん}」が行^{おこな}われます。今年^{ことし}の標^{ひょうご}語^ごは「君^{きみ}と未^{みらい}来^{らい}をつなぐ本^{ほん}」です。標^{ひょうご}語^ごの作^{さく}成^{せい}者^{しゆ}、福^ふ田^た雅^{みや}さん^{ことば}の言^{ことば}を記^{しる}します。

「子ども^このこ^ころ^ろに読^よんだ本^{ほん}は、大^お人^{とな}になつても心^{こころ}の中^{なか}の深^{ふか}いところ^{ところ}に生^いき続^{つづ}けます。

それは洋^{よう}々^{よう}たる前^{ぜん}途^とを照^てらして未^{みらい}来^{らい}をさ^{ゆた}かにするた^{たい}め^めの大^{たい}切^{せつ}な種^{たね}だと思^{おも}います。

幸^{しあわ}せな人^{じん}生^{せい}を本^{ほん}と共^{とも}に歩^{あゆ}んでもらいたい、と^{おち}の思^{ことば}いを言^{ことば}にしまし^{した}。」